



迅速実行の 6分野JJ21政策

自治経営は野平匡邦におまかせ下さい!!

自治のプロ、野平匡邦の公約・マニフェストです。ほぼ全項目の事業に年度と場所が入っています。特に、平成25年度が多いのが特長です。これまで準備してきた政策が急速に日の目をみようとしています。人口減少により財政収入がきつい銚子市にとって、安倍政権のアベノミクスは「財政の救世主」です。じっくりとお読み下さい。

銚子市民と歩む いのちの市政

1 市立病院の真の再生

市民のいのちの誓いを守りぬきます

市民のいのちを守る最後の拠点銚子市立病院は絶対に守ります。一度つぶされた市立病院が再生できたのは高い志のある高輪のお医者さんたちのおかげ。絶対に2度と辛い思いをしたくありません。近隣の大病院が急激な医師不足に苦しんでいます。かつての銚子市立総合病院の塗炭の苦しみを見るような気がいたします。

1 市の財政支出を限定 支出総額に上限を導入 (シーリング制) (平成25年度)

1 生懸命経営した結果として発生した病院収支の赤字補てんは、銚子市の財政で必ず補てんし、お医者さんたちに自腹で借金して埋めて下さいとは言いません。医師招へいのための経費と合わせて10億円の範囲で何とか節約していただきたいとお願いました。最後の責任は、市長の財政運営能力です。地方財政のプロ、野平匡邦におまかせ下さい。

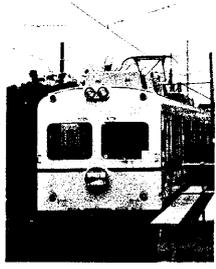
2 市民も観光客も買い物を楽しめる『てうし横丁』まもなく開業

2 生活の豊かさの充実

すべての世代にやさしい環境整備に努めます

1 マイレール 銚子電鉄の再建支援 国と市と北川財団で「事業再構築」(平成25年)

銚子電鉄は、銚子観光のシンボルですが、東日本大震災の影響で観光客が激減し経営が悪化しました。公共施設が電鉄周辺に配置され、銚子市民が自分の足として銚子市駅に乗る「マイレール意識」が銚子電鉄を守るキーです。地元の銚子市が駅舎、変電所、車両などの「インフラ施設」を保有する国交省の「事業再構築」の補助制度ができました。北川淳治記念財団のお金も活用します。銚子電鉄の社員やめれせんべいの焼き手の女性たち、合計80人の雇用を守りぬきます。



2 市民も観光客も買い物を楽しめる『てうし横丁』まもなく開業

2 月末に、ついに「銚子まちづくりカンパニー」が誕生しました。土地と建物のオーナーである(株)松屋百貨店と契約して、夏ごろには「てうし横丁」の市場がオープンします。買い物にお困りの市民も銚子を訪れた観光客も、ともに買い物を楽しんで下さい。スーパーマーケットとは競合しない手作りの商品を中心に並べる予定です。

3 みんなでくつろげる太平洋公園 グランドゴルフ

株式会社太平洋汽船様のご好意により、海鹿島の太平洋にそった1万坪の会社所有地を今後10年間無料でお借りできることになりました。土地開発がきつく制限されている土地なので、なるべく造成工事をしないで利用できるグランドゴルフや駐車場、児童遊園、日本のトイレなどを配置して、どいも若きも幼きも市民だれでも楽しく、日遊べる場所を作ります。

4 子育て支援 土曜一日保育・病児保育と双葉小放課後児童学級

働くママが困っている土曜日の保育サービス。公立保育園の保育士とのお話し合いがまとまり、平成26年度から土曜保育を開始できます。病児保育についても準備を進めています。市内で唯一、放課後児童学級がない双葉小についても、ふさわしい施設を周辺に準備しています。

5 NPO・ボランティア等の活動支援 個人市民税1%還元

永年の市民の要請に応えます。銚子市の個人市民税(23億円)の1%を積み立て、NPO・ボランティアなどの市民の自主的な活動に使っていただきます。配分は、市民代表の審査委員会に決めていただきます。銚子市の恒久化のようなものです。



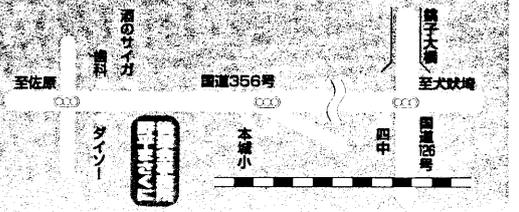
3 タップをできるかぎり確保

二次救急は、夜間でも働いてくださる常勤の医師と看護師のどちらかが足りなくても実現できません。チームとしての信頼関係ができあがるまで、医師会と連携しながらさらに努力します。もう少し我慢して待つて下さい。銚子市をふくむ東総地域は、医師だけでなく看護師さんもすくない地域です。地域の看護師さんを引きぬくわけにはいきません。病院には根気よく努力していただきます。

「いっしょに銚子を変えていきたい」という皆さん! お待ちしております!!

発行元 野平まさくに後援会
住所 〒288-0831 銚子市本城町4-415-2
電話 0479-21-3510
FAX 0479-21-3520

市政対話集会開催!!
対話集会の日程や会場は「野平まさくに後援会報」などで、随時お知らせします





III 安心・安全を最優先

「緊急防災・減災事業」で自然災害に強い公共施設を整備します

安倍内閣の看板政策は「緊急防災・減災事業」です。「減災」は「自然災害」に対抗するに「防災」よりも「逃げる」ことを中心に考え、そのための備えを大切にすることを。3. 日、の悲惨な教訓に謙虚に学んだ、市民のいのち最優先の政策です。跳子市は全国227の特定被災都市に指定されました。跳子市もこれから10年間は、市民のいのちを守る政策を最優先にします。



IV 海を拓く

海と港と陸を結ぶまちづくりを推進します
跳子市は、関東地方では、港湾、漁港、利根川など、もともと海に親しい地域です。先人が「海を拓く」政策を叫び続けてきました。ジオパークに指定されたのも、跳子市のオンリーワンの魅力が評価されたからでしょう。国土強靱化の国策に寄りそい、跳子市の魅力を全国にアピールしながら、まちづくりを進めます。

1 千葉科学大学 看護学部文部科学省認可

誘致10年目について、第2学部の看護学部の設置が目前となりました。今では千葉科学大学は地域に根ざした大学として、全国的にも「勝ち組」の名前を与えられるまでに成長しました。第2学部は建築学からの夢です。4学年で320人の女性中心の学部です。市内にセキユリテの整った良質なマンションが必要になります。

2 千葉大学 海洋バイオシステム研究センターをマリーナ地区へ誘致

市内に千葉大学があることを知らない市民が多いです。1977年(昭和52年)に長崎地区に建築されたのが、海洋バイオ研究センター「跳子実験場」です。古くは大岩にありました。大学では、いまふたばの元のマリーナ地区に戻す計画を準備しています。センター移転新築について、齋藤学長(医学部)と宮原教授(海の世界的研究者)は、跳子市の政策に対応して、研究所を建設する意向を真剣に温めています。

3 ふるさとと観光と民間活力の導入 跳子マリーナの再開と「地域産業振興センター」の建設

くつと改善されることになりました。安倍内閣の政策支援を引用して、民間型の複合施設として、大学の地域産業の振興・研究センターや、跳子市のジオパークの拠点建物、ジオ博物館などの施設を作り、入居させたいと考えています。土地は跳子市の遊休地を有料で提供し、建設費、所有者と入居希望団体を公平に公募します。これから将来の跳子のニュービジネスが生まれます。

V 産官学の連携で内発的産業振興

「地域経済循環創造事業」(マニピュ)を積極的に展開します
跳子市は、若手職員を中心に数年前から構想を温め、「産業振興条例」を準備していましたが、ついに安倍内閣の政策にそった内容で3月市議会に提案できました。工場誘致でもなく、地場産業優遇条例でもなく、内発的な新規地場産業を育てるための条例になりました。以下にその具体例をご紹介します。

- 1 小浜工業団地 岡山理科大学工学部の「環境水」で高級魚を陸上養殖
- 2 岡山理科大学工学部の「環境水」で高級魚を陸上養殖

2 跳子ジオパークの本格整備

学芸員のいる市役所ジオパーク推進室の設置(平成25年度)
駅前案内所(平成25年)とマリーナ地区拠点施設・無料博物館を設置

日本ジオパーク委員会は、跳子ジオパークを認定するにあたり、学芸員と拠点施設を設置する跳子市に強く要請しましたので、今後徐々に整備する必要があります。4月から市役所にジオパーク推進室をつくり、学芸員などの職員を配置します。マリーナ地区を想定して、ジオサイトに拠点施設を設置する構想を準備しています。無料の展示施設や博物館は、「地域産業振興センター」が民間建物として建設される際に設置したいと考えています。



3 希少な水産資源の利用による地域活性化 水産庁の指導で漁港・漁村の6次産業化

過剰化した資源を漁村地域には、水産庁がすすめている6次産業化の事業を検討しています。1次×2次×3次×6次産業化という考えかたは豊富な在庫に恵まれた跳子漁港には、さわしいと思います。

VI スポーツ・文化・芸術事業を推進します

- 1 跳子半島ハイフマロン大会の開催
- 2 全日本少年少女空手道選手権大会の10年連続誘致
- 3 スポーツ・文化・芸術のお世話会社「コンス」

上記のような大規模なイベントに依頼することが必要になります。同時に、地元でスポーツ・文化・芸術関係の市民のノウハウは貴重です。公務員が従事するに限りがありますので、地元でお世話会社を作ります。

まじとあります！

思いきり 夢は大きい 未完の八策

以下の8政策は、事業の年度場所主体、財源、成熟度を同時確保できません。未完成の八政策です。でも、他人からの借り物やバカりの発想はひとつもなく、すべて野平まさくにの独自政策です。しかし、まだまだ「公約」とは呼べません。ただし、5~6年以内に可能性が微々としたときは、跳子市の地域活性化の起爆剤と導火線になるものと自信をもって語れる内容ばかりです。私とともに夢を見ませんか？ どうぞご期待下さい。

西部地区 千葉科学大学獣医学部の誘致(加計学園が愛媛県今治市の次に努力中)

豊岡地区 (学) 日本地域活性化教育財団・千葉介護福祉短大を旧八中へ誘致(平成27年以降)

中央・東部地区 コミセン・図書館・東部地区コミセンの移転(緊急防災・減災事業)

市内 医学部誘致(香取・東総地域7首長(跳子・旭・匝瑳・香取・東庄・神崎・多古)懇話会が発進)

市内 国際防災訓練センターの誘致(平成8年当時の国会議員連盟の大構想)

市内 首都機能バックアップセンターの誘致(首都直下型大震災発生時(新・全国総合開発計画))

名洗港 千葉大学理学部と園芸学部の指導で野菜栽培工場船の母港化

名洗港 クルーズ船の寄港誘致(横浜・跳子・知床・夏のカムチャック&冬のオーストラリア・クルーズ)

